

令和4年3月15日

保護者の皆様 地域の皆様

仙台市立南吉成小学校

校長 千葉元春

## 令和3年度 協働型学校評価 報告

学校の森の紅梅が花開く頃となりました。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、日頃から本校の教育活動に対して、ご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

さて、本年度、取り組んできた「協働型学校評価」について、結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

皆様には、取組はもちろん12月に行った評価アンケートへのご協力をいただき、ありがとうございます。本報告に目を通すことで、南吉成小学校の子供たちの姿を知っていただきたく存じます。その上で、更なる子供たちの成長のために、学校・家庭・地域が、それぞれの立場でできることに一緒に取り組んでまいりたいと思います。未来を担う子供たちのために、これからもご支援ご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

### 協働型学校評価重点目標

#### 人との関わりを大切にし、相手のことを考えて行動できる児童の育成

- ◎挨拶を丁寧に行っている。
- ◎自分の気持ちや考えを伝えようとしている。
- ◎あたたかな言葉を使っている。
- ◎相手の話を最後まで聞いている。
- ◎困っている友達に声を掛けたり手伝ったりしている。
- ◎友達のよいところを見つけている。

全ての項目で80%以上  
を目指す

上記の到達状況を、児童、保護者、職員、地域の方へのアンケートにより把握し、今後の目標や取組に反映していけるように、結果をまとめました。



1 結果

(1) アンケート項目の回答

①挨拶, 気持ちを伝える, あたたかな言葉, について

No.	質問	評価者	評価 (%)					とても+まあ まあ8割以上
			とても	まあまあ	あまり	まったく		
1	「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」などの挨拶を丁寧に行っている	児童	54	42	3	0		○
		保護者	27	67	4	1		○
		地域	50	50	0	0		○
		職員	17	83	0	0		○
2	「ありがとう」「ごめんなさい」の気持ちを伝えている	児童	67	29	3	1		○
		保護者	31	61	8	1		○
		地域	32	59	9	0		○
		職員	21	71	8	0		○
3	友達を「さん」「くん」をつけて呼んだり「温かな言葉」をつかったりしている	児童	47	39	12	2		○
		保護者	35	50	14	1		○
		地域	28	50	22	0		×
		職員	18	68	14	0		○

殆どが80%に到達しており、良好な結果となっています。このグラフからは分かりませんが、低・中・高学年別に集計すると、項目1, 3において、高学年になるほど「とても」と解答する児童の割合が低くなる傾向が見られました(「まあまあ」を含めるといずれも80%に到達)。項目3において地域の方の評価が78%となっており、学校や家庭以外の場では、乱暴な言葉が出やすいのかもしれませんが。

②話を最後まで聞くことについて

No.	質問	評価者	評価 (%)					とても+まあ まあ8割以上
			とても	まあまあ	あまり	まったく		
4	相手の話を最後まで聞いている	児童	69	29	2	0		○
		保護者	22	60	17	1		○
		地域	28	67	6	0		○
		職員	9	65	26	0		×

唯一、職員からの評価が74%と、80%に到達しませんでした。児童の評価が98%となっていることから、児童自身は「聞いているつもり」しかし、教師からすると「聞いていない」ということとなります。

③友達への声掛け, 友達のよさについて

No.	質問	評価者	評価 (%)					とても+まあ まあ8割以上
			とても	まあまあ	あまり	まったく		
5	困っている友達に声を掛けたり手伝ったりしている	児童	65	29	6	1		○
		保護者	38	54	8	0		○
		地域	38	62	0	0		○
		職員	68	32	0	0		○
6	友達のよいところを見つけている	児童	59	31	8	2		○
		保護者	40	54	5	0		○
		地域	19	75	6	0		○
		職員	41	55	5	0		○

いずれも80%に到達しており、良好な結果となっています。

☆以下は、重点目標に間接的に関わる項目です。

④役割について

No.	質問	評価者	評価 (%)					とても+まあ まあ8割以上
			とても	まあまあ	あまり	まったく		
7	家庭で役割を果たしている(児童・保護者) 地域で役割を果たしている(地域) 学校で役割を果たしている(職員)	児童	50	37	10	3		○
		保護者	30	56	12	2		○
		地域	28	67	6	0		○
		職員	32	68	0	0		○

全体として良好な結果です。ただし、児童自身の評価は、高学年になるほど「とても」と解答する児童の割合が低くなる傾向が見られました(「まあまあ」を含めると、87%に到達)。

### ⑤学習について

No.	質問	評価者	評価 (%)					ととも+まあ まあ8割以上
			ととも	まあまあ	あまり	まったく		
8	家庭で進んで勉強している(児童・保護者) 学校で進んで勉強している(職員)	児童	52	34	12	2		○
		保護者	31	51	16	3		○
		職員	36	64	0	0		○

全体として良好な結果です。ただし、児童自身の評価は、高学年になるほど「ととも」と解答する児童の割合が低くなる傾向が見られました(「まあまあ」を含めると、86%に到達)。

### ⑥家庭生活について

No.	質問	評価者	評価 (%)					ととも+まあ まあ8割以上
			ととも	まあまあ	あまり	まったく		
9	早寝早起きをしている	児童	46	36	15	3		○
		保護者	39	39	19	3		×
10	朝ご飯を食べている	児童	89	8	1	2		○
		保護者	85	13	3	0		○

児童の評価が82%, 保護者の評価が78%と、やや差がみられました。保護者の方からすると、もう少し早く起きてほしいということでしょうか。

### ⑦保護者自身について

No.	質問	評価者	評価 (%)					ととも+まあ まあ8割以上
			ととも	まあまあ	あまり	まったく		
11	心にゆとりを持って、子供の思いを受け止めている	保護者	10	73	16	1		○
12	子供と向き合う時間を確保し、会話を増やしている	保護者	24	65	11	1		○

「ととも」と回答した方は少なめでしたが、「まあまあ」を含めると80%に到達していました。日々お忙しい中、意識して取り組んでいただき、感謝いたします。

### ⑧地域の方自身について

No.	質問	評価者	評価 (%)					ととも+まあ まあ8割以上
			ととも	まあまあ	あまり	まったく		
13	地域で会った子供たちと挨拶を交わしている	地域	63	37	0	0		○
14	子供たちに地域行事への参加を呼び掛けている	地域	48	17	30	4		△

地域行事を開催することが難しい状況の中での65%到達に、感謝いたします。

### ⑨職員自身について

No.	質問	評価者	評価 (%)					ととも+まあ まあ8割以上
			ととも	まあまあ	あまり	まったく		
15	道徳や学級の時間を通して「相手のことを感んがえて行動する」ことについて考えを深めさせている	職員	33	62	5	0		○
16	日常的に自分たちの姿を振り返ることを通して、目標を意識させるとともに取組への意欲を持たせている	職員	30	70	0	0		○
17	学び合う授業づくりを通して、人との関わり方について学ばせるとともに人と関わることのよさを実感させている	職員	38	57	5	0		○

いずれも80%に到達していました。コロナ禍の中、工夫して取り組んでいました。

## (2)自由記述の回答

保護者の方、地域の方に配布させていただきました。

## 2 今後の取組

### (1) 学校評価反省会(職員)から

#### ① 挨拶を定着させるために効果的だった取組(主なもの)

- ◎【褒める】良いモデルを見つけて全体の前で(会話の中で)褒める。
- ◎【率先垂範】教師が進んで挨拶をして手本となり続ける。教師が一番気持ちの良い挨拶をしようと心掛ける。
- 【児童会活動】児童会による挨拶運動での意識付け(コロナが落ち着いた頃、計画委員の児童から挨拶運動をやりたいという提案があり、学校全体としての意識付けにつながった)。気持ちの良い挨拶の練習。
- 【道徳の授業】道徳の授業で取り上げ、考えさせる。

#### ② 挨拶を更に定着させるために考えられる今後の取組(主なもの)

- 【率先垂範】大人が手本を示す。
- 【道徳の授業】挨拶をされなかった側の気持ちを想像したり体験したりする授業。
- 【児童会活動】児童会での挨拶運動等の継続
- 【多様な形態】会釈も立派な挨拶
- 【地域全体での取組】地域の方との連携

#### ③ 相手の話を最後まで聞くことができるようにするために考えられる今後の取組(主なもの)

- 話し方
- 確認タイム
- 聞く姿勢
- 集中のさせ方
- 相手との関係から
- 授業づくりから

※登下校中の安全指導の課題が浮き彫りになったことから、以下に意見をまとめました。

#### ④ 登下校中の安全指導についての今後の取組(これまで何度も指導してきたが・・)

- 見回りの強化
- 保護者、地域、関係機関との連携
- 児童会としての取組
- 指導の工夫
- その他

### (2) 南吉成学校運営協議会(学校関係者評価委員会を含む・小中合同開催)から・・3月8日実施

#### ◎地域の方(南吉成学校運営委員)から、ご意見をいただきました。

- ・地域として、入学式や卒業式に参加し、子供たちを祝いたい。しかしコロナ禍で参加できず残念。全体的に子供たちと顔を合わせる機会がなく、寂しい。
- ・コロナ禍にあり、子供たちに大きな声で挨拶をしてよいのかと迷ってしまう。会釈を取り入れていくのはいいかも。挨拶をするのが恥ずかしい子にとっても会釈はよいのではないか。
- ・スーパービッグから学校へ向かう道路は、危険である。どこかで改善しかいけなないといけなない。
- ・できた子の割合が高いという捉えだけでなく、そうでない残りの数パーセントの子がいるということを押さえてほしい。
- ・「地域の方が子供たちを見守っている」ということを保護者の方に伝える必要がある。そこを分かっていると、「子供会の意味が分からない」という意見が出るのではないか。ぜひこのような会で子供たちを育てていくために地域の方から意見をいただいていることを周知してほしい。
- ・地域はいかに学校を助けるかである。

### (3) 今後に向けて

- ①学校では、2(1)にあるような取組を、次年度も継続していきます。
- ②スーパービッグから学校へ向かう道路の安全については、毎年警察や教育委員会と情報共有をしているところ。地域の防犯協会の方も安全確保に向けて動いてくださっています。保護者の方には毎朝の立哨当番へご協力いただき、ありがとうございます。放課後は、学校ボランティア防犯巡視員の方々にも見守りをお願いしています。